三陸の海を放射能から守る
岩手の会（略称）**三陸の海・岩手の会**
郵便振替　02240-5-102650
ホームページ《再処理 / 岩手の環境》
http://sanriku.my.coocan.jp/
《本紙の全バックナンバー掲載》

止めよう！
《再処理》

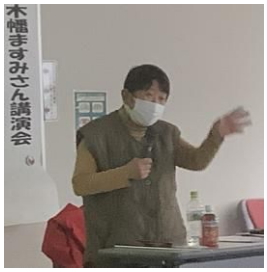
《天恵の海》
2023(令和 5年)
1月２６日
第２４１号
編集事務局　S.Oshida
TEL・FAX 019-623-1636

木幡ますみ講演会

原発が起こした一生かけてもぬぐい切れない苦しみ

一月一五日、盛岡市都南キャラホールにおいて、福島第一原発事故を体験し脱原発の活動を続けている大熊町町議会議員の木幡（こわた）ますみさんの講演会を開催しました。会場の第一研修室の定員ぎりぎりの六八人が参会し、講演に聞き入りました。講演への質問や意見交換もなされ、原発事故は絶対に許されないと確認しました。主催は本会と岩手有機農業研究会。いわて生協まなびくらぶ（ピースキャンパス④、クランボン）が共催しました。

講師の木幡ますみさんは、郡山市で避難生活を続けていますが自宅は大熊町の帰還困難区域にあります。３・１１避難を体験し、被害者町民の声を届けるために、押されて町議会議員になりました。二期目にはトップ当選、大熊町議会では唯一の女性議員です。事故当時から現在に至る体験と事故の実態を語りました。



我が家は　未だ「帰還困難区域」

事故当日

3・11 地震・津波・原発事故

木幡ますみさんは事故時の行動を思い起こしながら体験をリアルに語りました。当会編集部員のメモによって、講演内容をまとめました。

双葉町の喫茶店で女性仲間とおしゃべりをしていたら大きな地震が来ました。ドスーン、ガラガラ、石が転がり家は倒れ町はめちゃめちゃでした。そのあとの津波。本当に一五ｍ以上の大津波でした。

住民避難

「百年は持つ」と説明していた原発が事故を起こしてしまいました。予想だにしなかった事故で住民はどうしたら良いかわかりません。老人や病人など、逃げ遅れた人達が多くいました。

放射能災害について「避難訓練」は形ばかりで、「ヨウ素剤」については、聞くところによると県の担当者などに知っていた人がいたといいますが、町のレベルでは誰も知りませんでした。

高台にあった我が家

国道２８８号線の山側にある我が家は地震・津波には無事でした。しかし原発事故での緊急事態宣言と避難指示により一家全員避難しました。

福島第一原発は双葉町と大熊町にまたがっているので我が家は強烈な放射能に襲われました。どんどん放射能量が増し、父から託されていた線量計で測ると三月一二日には１００マイクロシーベルト／時を超え、私たちは不安な気持ちで我が家を

後にしました。

忘れられないペットの犬や猫たちとの別れ

住民避難というと人間のことばかりを考えますが、犬や猫のことも考えるべきです。我が家は高台にあり、ポチというイヌと三匹のネコを飼っていました。付近の犬猫達がどういうわけか多数、坂の上の我が家に集まって来ました。餌はとりあえずいっぱい残してきました。なんと我が家のポチとネコ達は、その集まって来たイヌ、ネコ達に「安心して食べろ」という態度でした。彼らイヌ・ネコ達は、ポチを中心に並んで、一斉に見送ってくれたのです。このことが目に焼き付いて忘れられません。

双葉病院の避難は凄惨を極めた

双葉病院には多数の入院患者がいました。少しは歩ける人、寝たきりの人、点滴中の人などが高い放射能に襲われたのです。

病院長はじめ医師、看護師などが必死になって安全な地域への移送に取り組みました。しかし、派遣されたバスはたった五台。さっきまで点滴をしていた患者がバスの床に寝かされたり、椅子に座らされたりしてバスは走り続けました。受け入れ病院を探しての走行で断られるとまた走行しました。途中、息が絶えてしまった患者が出ましたがどうすることも出来ませんでした。

会津若松へ役場ごと避難

大熊町は事故時、約一〇〇キロも離れた会津若松市へ、町役場ごと移転しました。これでともかく町の機能が維持出来ました。

明日を考える女性の会

避難所で私たちは「大熊町の明日を考える女性の会」を作りました。男性に比べ女性はおしゃべりが好きで避難生活で知り合った女性たちで、生活の再建を語り合いました。みんな困っていたのは、例えば「血圧の薬」。毎日飲んでいた薬が途切れる。大変なことです。役場に相談し、新しいお医者さんを紹介してもらいました。

また、私たちは会津若松市立図書館のパソコンを借りて、放射能のデータをダウンロードして調べこれはひどいと語り合いました。

腎臓透析の夫

事故の時、大変だったのは、腎臓の透析をしていた夫でした。これまでの病院では対応出来ず、私の軽トラに乗せて仙台の社会保険病院へ通いました。この病院は自家発電があったので運営出来ました。しかし、夏頃には人工透析しても夫の腎臓はもう機能しなくなりました。仕方がないので私の片方の腎臓を移植しました。今は「免疫抑制剤」が進歩し可能でした。夫は移植手術が成功し元気になりました。今では夫は私の言うことは何でも良く聞くようになりました。（笑い）

我が家への一時帰還

一時帰還許可証

我が家は現在でも「帰還困難区域」です。立ち入るには、許可証が必要です。その許可証は左の写真の様なもので、私の家なのに「パスポート」が必要な「外国」です。

住民一時立入り許可証

帰還する度に線量計で庭の放射線を計測していますが、我が家はまだまだ高い線量です。畳の上にはネズミの死骸があり、放射能検査をしてもらったら、「放射能の塊」でした。

現在の線量（裏庭）
21.1マイクロシーベルト／時

放射能ネズミ
ニューヨーク博物館に保管

我が家はサルやイノシシの住み家に

荒れ放題の我が家

無人になってから一〇年余。なんと、サルとイノシシの住み家になっていました。

畳の上にワンカップ！

なんと我が家に、誰かが入り込んで泊まった形跡がありました。コンビニ弁当とワンカップを持ち込んで。良く見ると、畳がお酒でべっとり。どうもサルが酒瓶を割って、お酒を飲み、さらにイノシシも酒のしみた畳をなめたらしい。サルとイノシシは同居はしない。サルは帰宅した私達を、不審そうに眺めるのですが、そのサルの酒臭いこと。消防半纏を着て帽子まで被って。ここまでサル達に住みつかれると、獣臭などで、折角残った家ですがもう使えません。被災した町民の支援で町は財政難。人間の住居として不能な物にも課税せざるを得ないというのですから、驚くほかありません。

＊次号に続く

木幡ますみさん著作

『わたしたちのこえをのこします～福島原発事故を生きるもう一つの記録』（共著）二〇一三年刊解放出版社

『原発をとめる・戦争をとめる』（鎌田慧・広瀬隆共著）二〇一六年刊梨の木舎